

(清水町) 清水ミライ自分ごと化会議 議事メモ

全体コーディネーター	伊藤 伸
説明担当者	NPO法人清水町アイスホッケー協会副代表理事川端和仁氏 清水町社会教育課長 藤田哲也 清水町社会教育課長補佐 安ヶ平宗重
日時	令和元年10月5日(土) 14時00分から17時00分まで
場所	清水町文化センター(清水町南3条2丁目1番地)
その他	グループコーディネーター 香田裕一(十勝の未来を考える自治体職員の会:幕別町職) 藤谷満伸(同上:大樹町職) 渡辺浩二(同上:芽室町職) 参加者数 23名 欠席者数 28名 傍聴者数(町民) 2名、(町外) 4名、(報道) 1名 事務局 前田 真(企画課長)、川口二郎(企画課長補佐)、 田村幸紀(企画課政策企画係長)、事(企画課政策企画係主事補)

趣旨・概要

第2回目のテーマは「文化・スポーツ」

- (1) 清水町の文化として継承されてきた第九合唱をこれからも継続していくのか。それ以外に町を象徴する文化はあるのか。
- (2) 第九と並びアイスホッケーのまちとして歴史を刻む清水町。アイスホッケーというスポーツをこれから清水町としてどのように振興していくべきか。
- (3) 文化スポーツの拠点として多くの文化施設やスポーツ施設では町民の文化・スポーツの拠点としてたくさんの活動が実施されている。人口減少が進む中で、老朽化が進む施設のあり方を考える。

オブザーバーを交えて3つの分科会でグループ討議を行った。その後の全体会でグループ毎の発表を受け、全体コーディネーターがまとめて意見を共有した。

自分ごと化会議の進め方

コ: 前回のテーマは「食と農業」。今回は「文化・スポーツ」、次回は「交通や立地」に関することのように、毎回変わるテーマを皆さんには議論していただき改善提案シートを記載していただく。この改善提案シートやここで議論した内容がいきなり計画に反映され

るわけではなく、これは来年1年かけて作られる清水町の10年間の計画を作る材料になっていく。皆さんには、合計6回の会議が終わった後も、最終的に自分たちの意見がどういった形で計画に反映されているのかということにも注目していただきたい。

事：(各班の議論の切り口を提案)

・第1班「アイスホッケー」について

→今まで清水町は「御影のホッケーチーム」や「清水高校アイスホッケー部」等により「ホッケーのまち」として発信してきました。その中で今後10年の中で「アイスホッケー」をどうしていきたいのか。

・第2班「第九」について

→清水町の子どもたちは「第九」をドイツ語で歌えたり、合唱コンクールの課題曲になっていたり学校のチャイムの音も「第九」になっています。さらには「せせらぎ合唱団」という町民で構成された合唱団があるなど、清水町は「第九」に対する思い入れが強い町です。この中で今後10年の中で「第九」をどうしていきたいのか。

・第3班「社会教育施設」について

→清水町には文化に関わる「文化センター」であったり、スポーツに関わる「体育館」を始めとして多くの社会教育施設があります。そういった施設の中で多くの文化活動や体育活動が実施されていると思います。しかし、清水町を始め全国各地で人口減少対策が講じられていますが、人口が減少することは避けられない事実です。人口が減っていく中で老朽化が進んでいる施設は残ります。またこれを改修しなくてはなりません。こういった中で、今後の社会教育施設のあり方はどういったものか。

コ：(補足説明)

今、事務局より各班の議論の切り口について説明があったが、そのテーマだけを話さなければならない訳ではない。これをスタートとして別の内容についてお話していただくことはもちろん構わない。今回は大きなテーマとして「文化とスポーツ」の内容ですのでその中で普段感じたことを話していただきたい。

また、テーマは役場側が勝手に決めたものではありません。アンケートの集計結果の中の「清水町から連想するキーワード」で一番多かったのは「酪農」に係るもの。次に多かったのが「アイスホッケー」と「第九」だった。キーワードの総数が約960個出てきた中で「酪農」のほかに多かったこの2つを第2回のテーマとした。また、最初の研修会時のアンケートでは、アイスホッケーを約7割の方が清水町としてもっと推していくべきと回答していて、残りの約3割がホッケーだけでなく他のスポーツについても力を入れるべきと回答があった。また、「第九」は賛成・反対の割合が6割と4割でした。この2つはどちらも大きな施設があるので、社会教育施設の今後を考えるという部分でも今回、このテーマについてお話していただこうと思う。

(各班に分かれて議論開始)

## ワークショップ (協議)

### 第1班

ファシリテーター：ファ (幕別町役場)

オブザーバー：川端和仁 (NPO法人清水町アイスホッケー協会副代表理事)

委員：6名

ファ：今回の第1班のテーマは「アイスホッケー」。ちなみに皆さんは、ホッケー自体を経験されたことがありますか。

メ①：自分は柔道はやっていますが、ホッケーはやったこと無い。

メ②：清水町に来て6年が経ちますが、見たこともやったこともありません。

メ③：ずっと清水町に住んでいるが、やったことも見たこともありません。

メ④：自分の子どもが学生の時にやっていたが、自分ではやったことはありません。

メ⑤：自分の息子が御影でやっていて、その時の御影はとても強かった。試合も子どもの送迎をしていたので見たこともあります。でも自分はやったことはありません。やったことがあるのは長靴ホッケーくらい。

メ⑥：30年ぶりに実家に戻ってきたので、やったことも見たこともありませんが、御影のチームからオリンピック選手が2名選ばれた等の話は聞いたことがある。

メ⑤：実際にスタンドに行って現役高校生に試合を観たこともある。また、自分が旭川で勤務していた時にたまたまその地域のチームの試合を観る機会があったが、地元の高校生たちのエキサイティングなプレーを知っている身からするとへなちょこだなんて率直な感想をもちました。

オ：選手は結構高齢なチームでしたか。

メ⑤：いいえ、旭川の大学生のチームと医大の人達のチームの試合だったが迫力に欠けていた。その時は周りの人に十勝のホッケーこんな感じじゃないよって言い続けた。私の同級生は結構やっていた。川端さんの弟さんがひとつ上の先輩なので、人数も沢山いて女子もやっていた。

メ③：自分が入っている町内会にホッケーをやっている子がいる。今は大学生。

ファ：身近にやっている人がいると、観てみようかなと思うきっかけになりますよね。メ①はどうですか。何かスポーツとかやってないの。

メ①：自分は柔道をやっています。

ファ：結構強いの。

メ①：いや、自分の兄のほうが強くてよく比べられていました。

ファ：清水町の規模であれほどの規模のアリーナを持っているということは凄いことだと思う。

オ：平成4年頃、町村の中では全国で初めて作ってくれましたからね。

ファ：開放期間は7月から3月まで休みなしでやっているのも凄いこと。

オ：建設された当初はもっと利用率が高かったと思う。しかし、競技をやる子どもの数が凄く減っている。小学生・中学生・高校生どの年代の子どもも減っている。

ファ：競技人口が減っている原因の一つとして学校の授業でやらなくなったといったことはないか。

オ：昔は帯広市内の学校では自分たちでリンクを作っていた。今もやっているところはあるが、少なくなっているは間違いない。

メ⑥：アリーナを使っている競技はホッケーだけですか。

オ：ほぼアイスホッケー。少しフィギュアスケートをやっている子もいる。また、アリーナのリンクではなく、トレーニング室に器具を少し置いているので、それを使っている一般の方もいる。

メ②：清水町の学校教育の中ではスケートをすることはないの。

オ：授業ではスピードスケートはやっている。

メ⑤：今はグラウンドに水を撒いてやっている。自分が子どもの頃はグラウンドではなく凍った池でやっていた。

オ：学校の授業にホッケーを取り入れて欲しい。せっかくアリーナがあるので子どもたちの体験でも良いので、アイスホッケーに触れてもらいたい。現在アイスホッケー協会では保育所の子どもたちがホッケーを体験する幼年ホッケーという事業をやっていて、そこでやっていた子たちが小学校に上がっても続けていますが、小学校低学年からホッケーを始めても十分追いつけるので、小学校くらいのときから触れてくればなと思っています。

ファ：きっかけがないと興味も持たないですからね。

メ⑥：その体験の時には防具とかは付けないでやるの。

オ：アリーナには幼年から大人が体験できるように貸し防具が一式ある。特に幼年の子どもたちの分については30人分ほどあるので、体験するには十分。

メ②：清水町はスケートに親しみをもつ環境が出来ていないのだと思う。アリーナがあるのに活用し切れていない。暖かい地域では各学校にプールがあった。夏の期間は自由に使えるし、授業でも使えるという環境があった。こちらの地域であればスケート靴に慣れ親しんで氷に触れるという環境が重要だと思います。重要なのはホッケーにだけ進むのではなく、スケート靴と氷に親しむこと。そこからどちらに進むにしても良いのではないかと。まずはスケートに関心を持つことじゃないかと思えます。

ファ：せっかく立派な施設があるからもっと使っていると思っていた。

メ②：各有名選手も施設の中で練習していますね。また、小さい子どもたちは有名人のニュースをみて、自分もこういった施設で競技してみたいと思うはず。だから、もっとこの施設をアピールしていくことが重要。

ファ：幼年の頃からずっとやっていたら絶対上手くなりますよね。

オ：そうなんですけどね、実際小学校に入ってからやめてしまう子たちが多い。やっぱり

費用面からなののでしょうか。防具を揃えるのもお金が掛かかるし、リンクの使用料など色々な面で費用が掛かってしまう。それと時間。どうしてもホッケーをやるにはアイスアリーナに来てやるしかない。例えば小学生が16時から18時までとしたら中学生がその後になってしまい時間が遅くなってしまふ。そうなってくると親の送り迎えの時間が負担になってしまっている状況。

メ⑤：その話は良く聞く。自分の娘が芽室の学校に通っていたが、その同級生の親から聞いた話だと、スケートが出来るアリーナは帯広か清水にしかないから、親の時間が送迎に取られるっていう話は良く聞いた。

メ②：費用的なことを考えると、フィギュアでも同じことを言える。あの衣装代とかコーチ代とかを考えたときにどこから捻出しているのか。防具は、体型が安定していないうちは更新しなければならぬが、体型が決まってくれば共有が可能。

ファ：そういったシステム作りが上手く行けば良いですね。

オ：御影ではそういったところは親と指導者で連携して使わなくなった防具とかを共有できるようにしているが、これがまた今の子どもたちというのは贅沢になってきていて、人が使ったものは使いたくないという子どもが多い。昔まではシーズン初めにいらなくなった物を集めて必要な人にあげるといったことをやっていた。今はそういった部分のコミュニケーションも取りづらくなっているのかと思う。でもそんな中でもやっている人たちもいる。

ファ：やはりイメージとしても高そうなスポーツとを感じる。防具もそうだけど、屋内でやるスポーツだし。

オ：昔みたいに屋外で氷張っているところで遊んでいるというような感覚はなくなった。完全に屋内スポーツとして一年中やるようなスポーツとして根付いた。

ファ：夏でもアスファルトでやるようなことはやっているの。

オ：トレーニングはしている。今はホッケーじゃなくてローラースケートでやるホッケーの施設も帯広にある。

ファ：本当にホッケー推していくとなると、町から多額の補助が出ればもっと盛り上がるかもしれないが、これがまた一つのスポーツにだけ税金を使う訳にもいかない。

オ：私たちはアイスホッケー協会としてやっているが、町からかなりの補助ももらっている。

メ②：全国的にはどれくらいの市町村がやっているのか。

オ：市も入ってくるとかなりの数になると思うが、町村レベルではいくつかしかないと思う。屋内アリーナを持っている町村は。清水町は全国で初めて。

メ②：全国的なホッケーの人口は？

オ：全国的にもホッケーチームがある。沖縄にもチームがある。国体にも沖縄にチームが出てきたこともある。今は九州・沖縄地区で予選をやっているので出場できなくなるかもしれないが。

メ②：清水町がホッケーの町ということを知ったが、現在これをどのようにアピールしていますか。一時期チームが減ったということもあって、競技人口は減っていてどんどん寂れているイメージがあります。また、素人目線では、試合は格闘技のように激しいので子どもにやらせるのは心配になる。こういった印象を持つようなスポーツだからこそ、どのようにアピールをしているのか気になる。競技人口の減少に繋がっている原因がわかるかもしれない。また、今はオリンピックの話題が多いが、その後の冬に大会でも盛り上がるのは日本が強いスケート・スキージャンプ・フィギュア。その中でホッケーが強いのはカナダだとかだから、日本はいまいちというようなイメージもある。

オ：こればかりは清水町アイスホッケー協会だけで考えても上手くいかないが、日本アイスホッケー連盟がもっと本気で何かを考えてほしいと思っている部分ですね。もちろん町アイスホッケー協会としても底辺拡大をしているつもりはある。先ほどの幼年体験や、大人でも初心者を集めて教室を開いたり取組はやっているがなかなか上手くいかない。

メ②：そこはクリーンな団体ですか。今はそういった団体での不祥事が目立っている。

オ：お恥ずかしい話だが、アイスホッケー連盟も何年前にごたごたやっていた。会長が辞任して、その後の候補者がいなかったり。また、関西の人達の意見と関東の人達の意見が食い違っていたこともあった。それもようやくここ2、3年で体制が整ってきた。先ほどの、トップリーグのチームもなんとか残ったチームもあるが無くなってしまったチームもある。最近では釧路のクレインズで企業がお金を出せないということで存続の危機にあり、今は一生懸命お金を集めて残っている状況。トップリーグがこういった状況にあるので、なかなか子どもたちが夢をもてない状況にある。

メ②：プロリーグがあるのですか。

オ：トップリーグと呼ばれるところが一応プロにあたる。プロ契約している選手もいる。もう少し夢を持てるようになってこない寂しいですね。そのかわり、女子のチームが今頑張っていて、前回のオリンピックに出場し、その代表選手の中に御影の選手が2名選ばれた。オリンピックに出たりするとマスコミも取り上げてくれるし。今は女子が盛り上がっている。でも、女子の競技人口が増えたかといわれるとそうではないので簡単ではない。

ファ：中々何がきっかけで盛り上がるかはわからない。ラグビーだって前はそんなに人気無かったのに今では急に盛り上がっている。やっぱり日本が強いと盛り上がりますね。

オ：トップのチームが強いと盛り上がりますよね。

メ②：スポーツの話は野球がメインになってくる。例えば、横浜の高校が練習試合に来たり、プロ野球の選手が教えに来るとかということを知るとやはり盛り上がる。そういった人たちが各学校に教えに来るということは出来ないものか。

オ：我々の協会では今年は出来なかったが、去年と一昨年は日光にあるアイスボックスというプロチームに御影出身の選手がいるので、その選手を中心に何名かのプロ選手に来てもらって、小学生から高校生を対象に指導してもらったりしている。

メ②：なかなかそういった情報が我々のところに届いていないから知らなかった。

オ：一応取り上げてはもらったんですが。

メ⑤：後は町内でもっとわかるようにアピールすることも必要になってくると思う。町民が知らないというのも寂しい。

ファ：もっと政策的に進めていかないとうまく行かない。町を挙げて歓迎して誘致してってやらないと。

メ②：交流が足りないような気がする。初めて第九の町ってということも聞いたし、町の歴史の中で第九の関わりがあるのは清水町だけではないと思う。全国的にあるとはそういったところとの交流はないですね。第九との関わりがある町と協力して演奏会を開き、町民を巻き込めば良いと思う。清水町の素晴らしいところは文化センターの音響効果が凄く良い。他町と比べると凄く良い。音更町や帯広市の文化会館のホールに負けないくらいの良い施設だと思うがこれを活かしてきれていない。アイスアリーナの施設もアピールを含めて活かしてきれてないと感じる。

ファ：今までホッケーとのつながりが無かったが、部下がクレインズのサポーターをやっているずっと太鼓を叩いたり、東北でホッケーをやっている、ホッケーをやめて役場に入ったり。そういったつながりからもちょっと見てみようかなと思ったんです。やはり1回見てみると面白いなってなる。

オ：本当にホッケーが好きな方は社会人の試合でも見に来てくれる。社会人に試合は夜の9時以降にあるが。

メ②：果たしてそれを町民の方々がご存知なのかなって思う。自分たちの世界に入っているような気がしている。

ファ：それを使ったイベントを企画してみるとか。1回防具とかを付けて滑ってみたいなって思ったことはありませんか。僕はやってみたいなと思う。それをきっかけにお祭りみたいなことをやってみると違うかもしれない。

メ⑥：普通にスケートができれば問題ないのか。

オ：何とかありますね。スケートできる人なら靴の刃は違いますけど、氷には立てるし間違えなく滑れると思います。転んだとしても防具を付けていれば痛くありませんし。

オ：自分たちのNPOではアイスホッケー通信といって毎月新聞にチラシを折り込んでいます。内容としてはアリーナで何をしているのかとかを清水町全域に広報はしている。

ファ：町は今日がちょうどイベント（にんにく肉まつり）の日だが、ホッケーも何かイベントと絡めることができるといいですね。

ファ：いろいろ話が出てきましたが、課題点としては「費用面」「時間面と送迎」「アピール」だいたいはこちらの部分でしょうかね。

メ①：ホッケーは全体でいくらかの費用がかかるものなのか。

オ：社会人だと大体15万円くらいはかかってしまう。ピンからキリだが大体はそれくらい。

メ④：小学生も今は443名いますけれども、その中でホッケーをやっている子どもたち

は45名。この数字だけを見るとアイスホッケーの魅力というものをどのように伝えているのか疑問に思う。先ほどから話を聞いていると努力はしていると思うが、アイスホッケー協会の自己満足のように感じる部分もあると思った。本当にアイスアリーナをアイスホッケー協会にお願いしてやっていただいているが、清水町はホッケーというものを本当に推している中で、今までの中で本気でどうしようかということ考えたことがあるのかなと思う。H18年度からの利用者数が若干減っているし、子どもの競技人口も減っているのもっと魅力の発信をすると変わってくると思う。

ファ：やはり一つの団体で出来ることっていうものは限度があると思う。町民に出来ることや行政が出来ることを考えて町全体で盛り上げていかないと難しい問題。先ほどの送迎の問題であったり、アリーナの立地であったりとか。

メ②：海外から北海道に来られる方は基本的にはスキーがメインだと思う。オーストラリアの人達も北海道の雪は素晴らしいといっている。しかし、スケートは無い。しかも台湾とかフィリピンの方々も夏になると帯広の方に来ますよね。その時に清水のアイスアリーナが7月から使えるのであれば観光として誘致すると手もあるんじゃないか。ましてや、冬になるとサホロリゾートに多くの人に来る人達もいっぱいいるし、そういう人達を御影に送迎して体験してもらおうというのも良いのではないかな。向こうの国にあるものだとしてもね、東南アジアに人達雪には触れたことはあるけれども氷の上でスケートを使って滑ることはまず無いと思う。こちらの地域は氷のイメージがある。その氷のイメージをもっと活用していけば良いのではないかな。帯広空港に行ったときも、清水町に宣伝は十勝千年の森しか無かった。アイスアリーナをアピールしていけば清水町のアピールに繋がると思う。

メ⑤：でも、そういった視点からの意見のほうが大きいと思う。

メ②：とても良いものはあるのにアピールしきれていないと感じている。

ファ：ホッケーだけを考えると駄目で、他と一緒に組み合わせてやるのが重要ですね。

メ②：もう一つ、ホッケーのほかにフィギュアもやっている人がいるのであれば、ホッケーだけに偏らず、女の子も男の子も氷文化の中で成長させて、将来その道を歩むのかは個人に選択させるというような、全体的に育てる発想が大事で、そういう人間を作ることが重要。

ファ：体験のツアーは何が流行るかわからないですよ。幕別町でもツアーに組み込んでスキー場でそりを滑るだけというものがあって、こっちにいる人からしたら何が楽しいんだろうなと思うようなことでも意外に人気があって台湾の方々もやっていたり。

メ②：鹿追町のスキー場は無料なんです。リフトも照明もあるし、スキーやボードのスペースとそりすべりのスペースが分かれていて凄いいい。これは自分の個人的な願望だけでも、清水公園の坂でそり遊びをしてみたいんですよ。

ファ：体験ツアーでホッケーを体験して帰ったときにホッケーをやったことを自慢してもらってどんどん話が広がっていくと面白いですよね。中々面白い意見が出来てきますね。

ファ：例えば新しいスポーツを考えちゃうとかね。ホッケーの防具付けて柔道やるとかね。



違うスポーツになっちゃうけどね。

オ：柔道の少年団も今は人数が減ってきているんでしょう。

メ①：そうですね。10年とか前だったら30人から40人くらいいたと思いますが、今は15人とかしかいないですね。あと、小さい子が少年団に入ってこない感じですね。

メ⑥：サッカーとか行っちゃうんでしょう。

メ①：そうですね。やっぱサッカーと野球ですかね。

オ：野球も今は少ないらしい。だからサッカーじゃないかな。

メ①：やっぱりそういうスポーツってテレビにもよく出る。テレビ側からしたら見る人が多いから出しやすいだろうし、最近だったらラグビーが日本開催だったりするのでよく見ます。そうなってくるとホッケーは地上波で放送されていないので目に映る機会がなかなか無いのかなと思う。やっぱり小さい子はテレビで見てかっこいいと思ったものをやりたがると思うので、清水だけでは無理だが、テレビとかの人も目につくもので宣伝できれば良い。

ファ：ホッケーのワールドカップはありますか。4年に1度みたいなものは。

オ：いや、そういったものはないですね。世界選手権は毎年やっているが。でも、日本の男子は出れない。下って言うほどでもないのですが出場までは行かない。

ファ：やはり競技人口が増えないことには全体として強くはならない。幕別町でも町の今後を考えることをやっていますが、たまたまオリンピック選手が多く出ているということでオリンピアのまちづくりとして取り上げられているが、実際は特に何かをやっているわけではなくたまたま出ただけなので、それで注目はしていただいています何がしたいんだろうと考えているところ。どうやって結び付けたら良いかという部分を。選手は知っているが幕別町のことは知らないのが大半なのでね。

ファ：アリーナの維持費はどれくらい掛かっているのですか。

オ：町からの指定管理委託を受けているので大体3,000万円くらい。あとはリンクの使用料が1,500万円くらい入ってくるが、電気代が1,500万円くらいかかるので人件費等は使用料からは出ない現状。

ファ：そこまでの金額をかけても維持して行きたいという町の意味なんでしょうかね。

オ：町の財政難の時にはアリーナとスキー場と温泉が無くなりそうになって、スキー場と温泉は無くなってしまった中で、アリーナはNPO法人としてでも残して欲しいということで指定管理という道を選んだ。出来るだけ町に負担が掛からないようにということで。それでも現実には厳しい。利用料も町の条例で決まっているので上げることが出来ないの。

ファ：平成4年に建てたとするとそろそろ建て替えが出てきますね。

オ：実際にもう25年経っているので老朽化は進んでいて、昨年度で言えば氷を作る冷凍機が壊れてしまって何千万という経費が掛かってまして、今後もちょくちょく出てくると思う。上手く更新できればいいですが、一気に来たときは困る。

ファ：建設費も相当の金額が掛かっているでしょうね。

オ：当時で8億円だったけど今では倍の金額じゃないと建ちません。

ファ：でもいつかはそういった時期が来る。その時に町として応援していくのかどうかの決断は難しいでしょうね。町民全体に理解してもらうためにどうして行くのか。

オ：まずは町民の皆さんにわかってもらわないとアリーナの存続は無理だと思うので、今後は動いていかないととは思っている。町の広報にももっと取り上げてもらわないと。可能であるなら毎月とか。

メ⑤：子どもが減ったということは大きい。自分の子どもの頃はまだ他にも沢山いたけど、その頃よりも減っているのは間違いないので。

ファ：全体の人口が減っていくと、人口の1割はホッケーをやっているとは言っても少なくなっていく。

オ：御影のアイスホッケー少年団の子ども達も清水と御影の子どもはどんどん減っていて、芽室町の子どもがかなり入ってくれて何とか維持している状態。芽室は芽室で少年団がないということで、やりたい子どもたちが清水の少年団に来ている状況。かなり比率が高くなってきた。

ファ：芽室から御影と御影から清水ってどのくらい？

メ⑤：ちょうど御影が中間。

ファ：中間くらいなのにどうしてそんなに差があるのか不思議。

メ②：清水高校でホッケーをやるために町外から留学しに来ているような子はいるのか。

オ：かなりいる。清水高校は総合学科なのでどの地域からも入学できるということを活かして、チームの中でも管内や町内の子どもは1/3ほどしかいないと思う。後は、町外の子だと思う。清水高校は寮みたいなアパートもあるのでそこに20人くらいはいる。かなり外から入ってきている。関東、関西、遠いところで九州からも選手が来ている。

メ②：私の家内の兄が神奈川県平塚にいて、その子供が小学生のときに芽室町に山村留学した。それが今無くなった。清水町もないでしょう。その高校生の子たちのような子が来ているのであれば一つの選択肢だと思う。あと芽室町には相撲取りさんがいるみたい。なので、そういうのをアピールというか、芽室町に施設がないのでええれば、他の町村を囲い込んで大きいくくりでスポーツというものを盛り立てるというのも一つの手段だと思う。ただ、アリーナの運営に関するお金のことは、クラウドファンディングをするだけとか町外の人達を巻き込んでやるのが良いんじゃないか。人口減少のことを散々言っているが、そんなものはどうしようもない。現状をどうやって打破していくかアピールして行くかが重要だと思う。清水町をアピールして結果が後からついてくる。清水町のアピールが足りていないのであって、アピールすれば盛り上がるような気がする。

ファ：やはりアイデアですね。清水町は男子図鑑をクラウドファンディングでやってますね。そこにマスメディアが食いついて宣伝するという流れになっているので、ホッケーについても何か上手いアイデアがあれば、ホッケーを面白そうと思えるきっかけになれば面白いですね。

メ②：食についてもそうですね。十勝若牛があるが、レトルトカレーが出ていますがそれだってアピールしていない。今回の文化にしてもスポーツにしても全部アイデア次第だと思う。

ファ：ホッケーも、「手軽にできるホッケー」みたいになるとね。幕別町もパークゴルフがあります。あれもゴルフからきていて、ゴルフ場に行けないようなご老人の方にやっていただくということで公園を使って気軽に出来るようにしたものだから、ホッケーもご老人が気軽にゲートボール場みたいなところで出来る人気になるかもしれない。「手軽さ」を重要視することは面白いかもしれない。アリーナを使わなくてもできれば、実際にアリーナでやってみようという意識になるかもしれないし。ホッケーは何歳くらいまでできるものなのか。

オ：やっている方は70歳以上でもやってらっしゃいますね。シニアリーグもやっている。70歳以上のホッケーは特別ルールがあるそうですよ。

ファ：幼児から高齢者まで出来る生涯スポーツですね。清水町にふるさと納税の中にホッケーの関するものはないの。

事：寄附の項目の中にアイスホッケーの項目がある。第九の項目もある。

オ：それこそ、今の幼年ホッケーの防具はふるさと納税のお金で整備してもらったもの。

事：アリーナのというか、アイスホッケー協会の中でクラウドファンディングの選択肢はあったことはありますか。

オ：クラウドファンディングはない。

事：クラウドファンディングにも何種類か種類がありまして「寄附型」や「購入型」がある。例えばふるさと納税みたいに返礼品を出すものもあれば、出さないただの寄附のような形もあります。アイスホッケーについても、全国にアピールする意味も含めて全国のホッケー関係者との繋がりを作るきっかけにもなるのかなと感じました。

メ⑤：ホッケーに興味がある人からしたら維持のためにということで寄附してくれることはあると思う。

事：もしやるにしても、団体個人で実施したとしても広がり方が弱いと思うので、宣伝の部分には行政が協力することは可能だと思う。もし、企画で協力することになったら、新聞社にお願いしたり、姉妹町として交流している地域に宣伝してみるとか出来るかもしれないなと思いました。もしかしたら何度も話に出てきていた交流に繋がるかもしれないなと思っていました。

メ⑤：姉妹町とかで交流の中でホッケーはないですか。

オ：姉妹町の交流自体少ないです。

事：今は清水町の文化協会に協力していただいて、文化作品の交流をしているだけです。

メ⑤：交流の中で体験してもらおうということも一つの手段なのかと思う。

事：文化協会でお願ひできるのであれば、体育協会でお願ひしてみても面白そう。

メ②：先ほどホッケーは全国にあるとおっしゃっていたけれども、であれば第九も探せば

あると思う。だから第九とホッケーを合わせて考えるのも手だと思う。やっぱりマスメディアに取り上げてもらったほうがいいですね。千年の森は何度か取り上げてもらっていますよね。芸能人が来てもらってアピールするとか。

オ：今浅田真央ちゃんがアイスホッケーを始めたんですよ。引退後にね。いいチャンスだと思いますね。何とか呼べないかなんて思っているところですね。

ファ：役場からお金だしてもらって。

オ：クラウドファンディングとかでね。でも、フィギュアをやっている真央ちゃんじゃなくてホッケーやってる真央ちゃん皆見たいかな。

事：エキシビジョンのときに第九で滑ってもらうとか。

ファ：アリーナの建て替え時期が来たときが一番大変だよねきっとね。

メ②：それこそクラウドファンディングでしょ。

メ⑤：でもただやるだけだと集まらないから、その時期までにどうやって清水町をアイスホッケーの町っていうイメージに持っていくか。

メ②：それこそ僕は全国に対するアピールだと思う。全国にそれほどアイスホッケーのチームがあるなら尚更。それはマスメディアを巻き込んでいくしかない。

メ⑤：自分の中には昔から御影が強かったイメージしかなかったから、したびになっていることを実感。

ファ：思い切ったところでいうと、産業でホッケーの道具を町で作って伝統工業にしてみるですとか。

メ④：道具作ってもそれが活かされなければね。

メ⑤：他の地域で活用されるかもしれないですよ。

ファ：画期的なスティックを作るとかね。

メ①：折りたたみ式のスティックとか。

ファ：スピードスケートも以前は動かなかったけれども、今はスナップスケートが出てきますしね。ホッケーもルールの範囲内でものすごい物を開発したら売れるかも。

メ②：古くなった防具というのは、単に転用とか破棄するしかないものなのではないでしょうか。

オ：あまりにも古いものは破棄するしかないですが、そうでない物は皆さんに譲ったりして使っていますね。

事：道外のホッケー関係者とホッケー協会が交流をしているのでしょうか。

オ：個人的なレベルでしか情報交換はしていない。

事：清水町の特有のものとかはなかったのですか。

オ：うちはその幼年ホッケーをやり始めたのが早かったくらいかな。

事：幼年ホッケーも今では各地で実施しているということですね。

オ：アリーナでホッケーのほかに出来ることっていうのはかなり限られてくる。カーリングをやってみたらという意見もあるが、リンクの性質が違うということでかなり難しい。

メ①：アイスホッケーにゆるキャラみたいなものはないのか？清水町はウッチャンがステ

イック持っている絵があるが独自のものは無い。野球は1つの球団にそれぞれキャラクターがいるし、あとは日ハムだとファイターズガールがいたりする。なんとかガールみたいなものを作ってみるとか。

オ：御影アイスホッケー48とかね。48人は無理だから48歳でそろえるとかね。

## 第2班

ファシリテーター：藤谷満伸（大樹町役場）

オブザーバー：安ヶ平宗重（清水町社会教育課長補佐）

委員：8人

ファ：2班のテーマの切り口は第九です。将来的に残そうとか伸ばした方が良い又は止めた方が良いという結論ではなく、町民アンケートの結果で強みとしてたくさん意見が出たことに対して皆さんはどのように思っているのか、またはどのように携わっているのかなどのお話をいただければよいと思います。最初に大樹町に住んでいる私の感想ですが、もともと清水町に第九というイメージはありませんでした。今回のテーマを与えられて初めて知ったところです。子どもの合唱や学校チャイムなど、皆さんにとっては馴染みが深く、接する機会も多いと思いますので、そこをお聞きしたいと思います。どなたでもご自由に発言してほしい。

メ①：清水町に住んで4年目ですが、自分自身歌ったことはありません。暮らしていて触れ合う機会がないというのが正直なところです。

ファ：歌うだけでなく聞いたこともあまりないのでしょうか？

メ①：チャイムが第九だとかは聞きますが、実際に暮らしていて触れ合うかという、それはないかな？という実感です。

メ②：小中学校の音楽の授業で歌いました。

ファ：ドイツ語で歌うのですよね。

メ②：はいそうです。

ファ：他の市町村ではない文化だと思いますが、お子さんがいらっしゃる方は学校に行く機会があるので触れる機会はあるのかなと思います。

メ③：合唱団がイベントで歌われているのを聞いたことはあるが、触れ合う機会がないのが現状だと思います。私は清水の小中学校でしたが、私たちの年代のときは授業でも歌いませんでした。今、第九の町として推していくならば、ただやっているだけでなく繋がりを築いた方がよいと思います。

ファ：実際に合唱団とかで歌われている方はいらっしゃいませんか？

メ④：私、大ホールで行われた第九合唱に参加したことがあります。

ファ：それは誰でも参加できるのですか？

メ④：確か年齢制限があったと思います。

ファ：皆さん清水町の封筒をご覧になったことがあると思いますが、「ベートーヴェンの第

九」って書いてあります。接する機会がないにしても、何かしら耳にしたりすると思うと思います。

メ④：クラシックは敷居が高いというイメージが強いのかな？と思います。

メ③：ちなみに第九を歌われている方は自分で手を挙げて参加するのでしょうか、最近の参加状況はどのようになっていますか？

オブ：5年に1度の合唱団の一般公募をしています、2018年は小中高生で3分の1、町民で一般の方が3分の1、町外で一般の方が3分の1です。町外の一般の方は普段から合唱の活動をしている方が主です。町内の方は始めて歌うという方も若干はいます。

ファ：普段合唱をしている方ではなく、5年に1度のタイミングで公募して歌うということですね。

オブ：そうです。演奏会のために結成する合唱団です。

メ⑤：合唱団は高橋亮仁さんの「せせらぎ合唱団」が発展して町全体で歌おうとなったもの。町民が第九を歌い上げた町としてテレビ放送され全国に広がった。東京・札幌にふるさと清水会を立ち上げたが、そこから意見を吸収することを町は怠ったと思う。プロ的ではなくラフな歌い方でも良いので、帰郷したときに歌う機会があるなどのチャンスをつくり、建設的な意見をもらうことが大切だと思う。現実的に封筒の文字には気づかなかった。今後人口が減っていくときに第九だけに限らず文化会館をもっと音楽を聴かせるチャンスとして文化センターを活用できないものか。昔あった第九の森をつくる構想と道の駅を連動させ「そこに行けば牛もすごい音楽もすごい。」と言われるようになれば良いと思う。

ファ：第九に限らず？

メ⑤：第九に限らず、大切なのは全てのことを繋げること。また、建てた施設が空いているのがたくさんありますが、建てたものをそのままにしておくことは税金の無駄遣いと思う。得をしたのは建設会社だけだと町民は思う。清水町は今回のなつぞらで3大スポットとなった円山展望台と美蔓パノラマパーク、日勝展望台をトライアングルに結んで、その中心に牛を主体とした「牛の駅」を作ったらどうだろうか。そこに町のあらゆる物産を販売、搾乳や肉加工体験ができればおもしろいと思うし、集客力もあると思う。

ファ：それも文化を含めてということ？

メ⑤：現時点では、「第九」というキーワードに私はピンとはきていない。

メ⑥：私も清水町出身ですが、小中学校で歌った記憶はありません。そもそも何で第九のまちになったのかわかりません。小学5年と1年の子どもがいるが、第九は歌っていない。上の子がドイツ語で第九を歌っているのを聞いたことはありますが、もっと第九を推すのであれば、必ず文化の日とかに多くの町民が参加し歌ったりするなど、小中学校の行事の一環としてイベントを実施するともっとなじみが出ると思う。子どもたちも小さい頃から第九に触れていると自分たちのまちの誇りとして根付いていくと思う。

ファ：やるのであれば、もう少し積極的にみんなが触れられるようにすべきだということですね？もっと馴染みがあるのかなと思っていました。

メ①：第九は中高と歌っているの？

メ②：小中学校は歌っています。高校は清水高校でないのではありません。

事：清水高校は合唱祭の課題曲として全学年が歌います。

メ⑤：第九は長いけど、学校（学級）単位で歌う場合はどの部分を歌うのですか？

事：一番有名な部分です。

メ⑤：ソリストの部分はないのですね。

事：そこはないです。小学生も歌えますし、中学校の文化祭はオープニングが全校第九合唱です。幼稚園児もドイツ語で歌っています。

メ⑤：どのくらい前からやっているのですか？

メ⑦：自分が小学校6年生頃だった気がするので昭和5・6年だったと思います。

メ⑤：毎日歌ってたの？

メ⑦：毎日とかではなく、学校行事などに向けた練習期間に合唱練習していたり、器楽の練習をしていたと思います。

ファ：100年記念のときは学校単位で参加しているのですね？

オブ：いつからかは詳しいことはわからないが、現在は町内の御影の子ども園、清水幼稚園・保育所、清水小学校、各中学校、清水高校で合唱隊や十勝管内合唱コンクール等で歌っています。歌っている部分については、全部歌うと20分くらいになってしまうので、実際には1分位のサビの部分で歌っています。

メ⑤：清水町はどうして第九を表明しているのか？

ファ：表明とかきっかけは、文化センターが完成したときの柿落としの時に歌ったことです。

メ⑦：第九が歓喜の歌ということでその時に歌ったんですかね。

オブ：38年くらい前に文化センターが作られたときにこれを記念して何か催しをしたくなった時に、当時演奏会を主催しておりました清水高校の高橋先生がやるなら歓喜の歌である第九を町民合唱団で歌おうということで企画したことではじまりました。

メ⑤：せせらぎ合唱団が独自で実行委員会を作って、現在も町として支援していないのに、どうして第九のまち清水としているのか。

オブ：2000年の第5回頃から町としての補助はありません。それ以降は実行委員会独自で協賛金を集めて運営しています。

メ⑤：清水町として今後第九を推して行きたいなら、バックアップはしなければならない。例えば、その演奏会や合唱の際に町民の80%が参加するならお金を出すなど。よその地域から人が来て演奏などしてもらって、お金を出さずにそれを清水の第九と歌うのはおかしくないですか？アイスホッケーは施設等にお金を出して、そこに町外のホッケーをやりたい人が集まっている。これは素晴らしい。しかし第九は他町から来た人に交通費も出していないですよ？実行委員会から出しているかはわかりませんが。

オブ：現在合唱団に入るのに参加費を負担してもらっている。2000年までの数値しかあり

ませんが、第九の演奏会を実施するのに事業費が約1千万円ほどかかっていました。しかし、2000年以降は町の財政難に陥ったこともあり、補助金が出せなくなりました。

メ⑤：私はこの事業に反対したいのではなく、この事業は清水町民100%でやっている訳ではなく、清水町と関わりがある人や第九を歌いたい人もいます。その人達がこの事業に参加するためにお金を支払わなければならないということはおかしいのではないかなと思う。

メ④：どうして第九なんだろうと思っているのが正直なところですが、今後も第九を進めていくのであれば、幼児の頃から教育の一環としてやっていかないと続かないのかと思います。また、「松山千春コンテスト」のように「第九コンテスト」を企画して全国から第九に興味がある方を集めて、合唱や演奏どちらでも参加できるようなイベントを企画したら面白そうだと思う。最後に、清水町では子ども達がドイツ語で第九を歌えるということで、せっかくドイツ語に触れるのであれば、ドイツの文化やイベントを参考に企画できることもあるのではないかなと思う。

メ⑤：せっかくやるなら小学生の部や中学生・高校生までやったほうが良いと思うが、町からお金は出せないんでしょう？

ファ：町民の意思から、町全体でやるとなれば町としてももちろんバックアップはある。

メ⑤：演奏会の会場や練習場、または合宿所としてフロイデは最適な場所だと思う。あそこにはロッジもありますのでね。

メ③：「合唱」と「第九」はどちらが素晴らしいのかわからない。日本人だからドイツ語で歌う必要も感じない人もいると思う。第九について反対するつもりはないが、今後も第九にこだわる理由は何かあるのか。

メ①：私は職業柄合唱を歌うほうだったんですが、初任のときは音更の学校にいました。そこでハレルヤをドイツ語歌っていました。原曲で歌うことは何らかの面白みが生まれると思う。合唱自体、皆で同じ歌と一緒に練習して一つのものを作るということでやっていて楽しい。自分も出来ることなら参加したいのですが、なかなか私生活で時間を作ることが出来ず参加できずにいます。興味はあるので5年に1回というような形式ではなく、もっと手軽に参加できる形式の方が盛り上がると思う。合唱の曲については第九意外の曲はご法度な？

オブ：そういう決まりはないが、合唱祭でいうと2曲を歌う中で1曲を第九を歌うとしています。それは幼稚園や保育所でも同様。しかし、演奏会については第九でなければいけないということはありません。

メ⑤：この「第九」と「アイスホッケー」という2つの言葉に共通することはどちらも「協調性」があるということ。つまり清水町というまちは協調性のある町だとPRしていると思う。町自体がどう思っているかはわからないけれど。

オブ：町のキャラクターであるウッチャンも第九をモチーフにしたイラストがある。また、カリヨンや、学校のチャイム音も第九をモチーフにしている。今後も第九をモチーフとして進めて発展して行きたいと考えている。町内で流れるサイレンの音を第九にしたりする



など歌っていないなくても触れることが出来るように進め、「清水町→第九」でなく「第九→清水町の発展」につなげたいと考えている。

メ③：第九以外の文化カテゴリーは何があるのか。

オブ：第九以外の文化関係団体では、伝統文化（茶道・華道・三味線）やダンス（社交ダンス・ジャズダンス・フラダンス）、創作活動（俳句・短歌）、歌（合唱・カラオケ）があります。

メ⑤：現在文化センターを改修しているが、いくらかかっているのか。

オブ：費用は2年間で9億円です。年内いっぱいです工事が終了します。

メ③：文化のまちとして様々なジャンルがある中で新たにイベントを実施することを考えているのか。「第九」という枠ではなく「文化」という大きな枠の中で考えてはいるのか。

オブ：「第九のまち清水」の枠外でいいますと文化連盟がありますのでそちらが主催のイベントがあります。

メ⑤：ベートーヴェンの故郷と呼ばれるような町との姉妹町交流等はしないのか。アメリカばかりではなく、今は子どもたちが英語を授業で習っているが、そこをドイツ語専攻の先生を任用し、子どもたちをドイツに派遣すると学習意欲の向上につながるのではないのか。

オブ：現在実施しているアメリカに行く事業については民間団体の国際交流協会が主催しており町が補助している状況で、ドイツは考えていなかった。

メ⑤：アメリカには英語しかない。ヨーロッパは多国籍な言語に触れることが出来る。子供たちは吸収したいものをすぐに吸収する。自分が主催するなら、アメリカに行く人数と期間を減らして、少人数短期間でドイツに行かせるほうが効果的ではないかと思っている。

オブ：第九をきっかけとして、ドイツ留学等に向けた広がりも重要ということですね。

メ①：さきほど2000年頃から補助金が出ていないと話がありました。資料には実行委員会主催と記載されているが、主体はどこですか？また、5年ごとに開催していたものが不規則開催になっている年もあり、参加者数もジリ貧になってきている。これを清水町にまる投げするつもりはないが、今後どういう方向に進むことを考えているのか。

オブ：第4回・5回までの演奏会は国や道からの補助金によって大体1千万円規模で実施していました。また主体は資料には実行委員会となつてはいるが、実際は教育委員会で進めている。2002年の演奏会に関しては清水町100年記念として実施しましたので不規則開催となっている。第6回目の演奏会について団体からの協賛金を募ったり、また国や道の補助金を集めて開催した。2005年以降については完全な一般町民の実行委員会で会計を運営したが、実務を担ったのは教育委員会。人数は当初は高橋先生を中心に町民が参加者の大半を占めていたが、その後は町外へ周知したことで人数が増加していった。しかし、町外の方が増加しすぎたために、第7回から、特に前回については町民を主体に開催したため人数が減った。実は第8回は2015年に開催しようとしたが、なかなか実行委員会の組織体制が整わなかったために開催できず3年延びてしまったという経緯がある。来年度は2020

年度なので教育委員会としては実行委員会形式で開催したいと考えている。開催する際にほぼプロの方々が集まる札幌交響楽団を招聘するとなると経費が掛かりすぎてしまう。第6回と第8回はアマチュア楽団をお呼びして開催した。出演料等はかなり違ってきます。2020年の開催につきましてはそれほど大きなお金を使わずに開催するように考えている。

メ③：町の補助がなくなったが、国と道は出してくれるのか。

オブ：断定できませんが補助事業はある。

メ⑤：前回と同様に手作りでやれば良いのではないか。

オブ：町としても、町の財源と国と道からの補助金で実施したいという思いがある。1回の演奏会にどれ位のお金を出せるのかが考えどころ。

メ③：高いレベルの音楽を求めるのであれば高いお金を支払って交響楽団等と呼ばば良いと思うが、清水町の文化振興を優先するのであれば、高いお金を支払う必要はなく、清水町民で作り上げたほうが断然良い。例えば以前消防のイベントがあったときにはブラスバンドや吹奏楽部の子どもたちに演奏してもらった。こういった手法の方が文化振興になるのではないか。

オブ：そのような考えもあります。2002年に開催した町民合唱フェスティバルのような形式を来年は採用して行きたいと考えている。

メ⑧：図書館では絵画等の文化作品の展示をしていたりするので、そういった方々は趣味で文化に触れている。町民は文化振興に一生懸命な印象が持てる。子供たちが第九を歌えることに対して他の町の人からは凄いねといった声を良く聞く。今後ももちろん続けていくべきだと思う。文化振興に一生懸命は人達が協力し、見せる場をつくることで文化に興味を持つ大人や子供も増えてくると思う。

オブ：文化協会で町民芸術文化祭を開催し、町にあるサークルの皆さんが発表している。展示部門や舞台発表部門があり、展示部門は3日間、舞台発表部門は半日開催している。

メ⑧：もっとそこをアピールしていきましょう！あと、この文化祭は清水と御影が同日開催なので別々に開催することで御影の人は清水の発表が見られるし、清水の人は御影の発表が見られるので良いと思う。

オブ：管内町村で文化協会が2つある町村は清水町くらい。

メ⑤：町は実行委員会にお金は出さないのにも関わらず、この文化センターを9億円かけて改修している。改修したのに使わなくなるのは困るからという意味合いで第九を続けさせようとしているのか？

オブ：決してそういった意識は町としてはない。もちろん演奏会というイベントは「第九のまち」としては一番大きなイベントだと思っている。しかし、演奏会のときにだけ多くに人がこの施設に入るというわけではない。町民芸術文化祭でも約500名～600名の人が入ります。先日のジャズダンスサークルの発表会では約800名の方が入っています。

メ⑤：結局のところ色々な意見が出るが、この出てきた意見が町の長期計画に反映される可能性はかなり低いのではないか。

オブ：2010年の演奏会の実行委員会から町民主体が良いといった声をいただきました。

ファ：規模を縮小したとして、回数を増やすことで第九に触れる回数を増やすということについては可能でしょうか？

メ①：第九の実行委員会は毎年作るものなのか？

オブ：3年間ほどで解散し、次回の演奏会開催に向けて新たに組織するもの。その都度実行委員会を結成する。

ファ：皆さんの意見を聞いていると、今までに大掛かりなイベントだけではなく、松山千春コンテストのようなアイデアを必要と感じます。さらにもう第九をやめた方が良いという感じでもないと思いますので、もっと清水町の第九に「手軽さ」があると変わってくるのかなと思った。

メ①：第九という部分で考えると、40年近く続けてきたものをいまさら新しいものに変えるということは町民誰も「何で？」と思うのは当たり前だと思う。今後も大事にしていくことを前提で、どうやって盛り上げたら良いかと考えていた。オーケストラをつけたイベントというものを毎年実施するのは労力やお金、さらにはモチベーションを考えて無理ですよね？5年に1回はこういった大掛かりな演奏会を実施する、ということをはっきり決定して、その間の4年間は町全体に第九を根付かせる何かを実施したほうが良いと思う。それは清水高校や清水中学校が合唱等で歌う2分間の部分でも全然良いと思う。町民芸術文化祭に盛り込んでみても面白い。5年に1回はみんなで第九を歌って盛り上がる！という町民意識をしっかりと伝えていけばよいのではないか。

メ⑤：その4年間の中で清水町内やあるいは西部十勝にある町村出身の芸術家や音楽家にアプローチをかけていくことで、やってくれる人は必ずいると思う。それを継続実施することで「文化の町」としてのベース作りになり、そこから文化振興に発展する。

ファ：今、話を聞いていて思ったのは、歌うことに関するだけでなく、ライトなイベントにおいて主体になる人ってという部分もない状況ですか？

メ⑤：今までやってきたものについては、こちらからの選んでいるのか、向こうから売り込みに来ているのか？

オブ：売り込みもありますし、こちらで選定して依頼するケースもあります。

メ⑤：やはり文化の町といっているぐらいだから、一年間のスケジュール管理をして数多くの芸術に触れるようにしたいね。

メ③：様々な文化サークルの多くは町民主体。公共施設を使用する際には使用料がかかる。学校行事などは使用料免除等があると思うが、文化を振興する立場として、文化的な使用に関する使用料は免除しても良いと思う。

オブ：平成14年度までは町民の利用は無料だった。14年からは受益者負担金を導入し、現在の文化サークルの皆さんには1割5分を負担してもらっている。残りの8割5分は免除している状況。

メ③：町としても文化振興を目的として施設を開放するようなイベントを実施したほうが

より振興に繋がると思う。

オブ：目に見えない部分だが、公民館において公開講座や体験教室を実施している。目的は、この講座等に参加しこれをきっかけに新たなサークルに発展してもらえたら良いという思いがある。現在約40種類の文化サークルがある中でそのほとんどを行政が実施した講座をきっかけとして発展したものになっている。今年実施した講座等も、これをきっかけとして2種類のサークルが作られた。やはり、自分たちで講座等を開催するのは大変なので、大変な部分は行政に任せてもらいながら、文化に触れるきっかけに欲しいと思う。

メ①：今やはり主体となる実行委員会は必要になってくるのではないかなと思う。

オブ：実行委員会はどこが「主体」で作るのが一番良いのかが難しい。行政か？町民か？地域なのか？

メ①：旗振りは行政で良いと思う。ただ全部が行政だと盛り上がらないので、そこに地域や町民が入ってくるのが理想形です。楽団や合唱団が主体でも上手くは行くと思うが可能でしょうか？

オブ：初めに先頭に立っていただいていた高橋先生はまだご存命ですが、さすがにご高齢になってきていますので、継続的には難しいかと思う。

メ⑦：どんなイベントも、当初は熱意のある人間がトップにいたから物事が進むのだと思う。これは演奏会だけでなく、どのイベントにも言える。主体になるのは並々ならない熱意を持っているところがやらないと駄目。

ファ：どうしたら良いかはわからないが、一番根本にある課題はそこかもしれない。

メ③：今後も合唱を定期的に続けていくことが課題で。主体となる実行委員会をつくること。また、行政のバックアップは必須。

メ⑥：質問ですが、企画課では何をしているの？イベントを町で主催する際に提案することなのか？この長期的計画の音頭をとっているのが企画課なのか？また、この第九っていう部分が今の計画に入っているのか？

事：我々が企画をして実際にやってみようというわけではなく、実際にやっているのは、商工観光課であったり社会教育課などの担当課になる。今作っている長期的な計画が役場の共通目的なので、この目的に沿うように他の課に意見するような立ち位置になる。また、この文化や第九に関する記載というものも、現在の総合計画に中に盛り込まれている。次の計画を作る際に、文化・スポーツといった部分を記載する必要性があるかどうかを皆さんの意見を聞くのがこの場だと認識している。

### 3班

ファシリテーター：渡辺浩二（芽室町役場）

オブザーバー：藤田哲也（清水町社会教育課長）

委員：9名

ファ：文化、スポーツについて清水町の良いところと悪いところ、改善したいところを考え付箋に記入してもらいたい。その後まず一人ずつ発表いただき意見交換をしていきたいと思います。（5分間記入の時間）

ファ：順番に発表していただきたいと思う。

メ①：アイスホッケーが気軽にできる環境があるのはいいと思う。施設があっても教えてくれる人がいないとできないので、専門の人がいることはいいと思います。文化センターについては、建設当初は良かったかもしれないが、今となっては人口規模に対して大き過ぎるように感じる。一覧にある施設の中にはあまり利用されていない施設もあるように感じる。

メ⑤：自分は文化センターを利用するが、今施設改修をしていてお金もかかるが、安全安心に利用できるように改修してくれているのはありがたいと思っている。

メ③：施設が多いが、きたくま文化蔵は利用者が少ないと感じる。一覧に載っている施設が今後も維持できるか、維持する必要があるのか難しい問題だと思う。第九、ホッケー共に参加したことはない。競技人口はわかるが施設の費用が知りたい。今後清水だけで運営していけるのか不安に思う。清水町がなぜ第九なのか意味がわからない。

メ⑥：大きな公園に遊具がなく、親子がゆっくり過ごせる環境がない。やはり遊べる物がないと子供は来ないのであったらいいと思う。各施設とも老朽化して改築が必要になってきているので、縮小も考えていかなければならないのではないかと思う。ホッケーは少子化もあって地元の子供が少なくなっているように感じる。

メ⑦：以前に施設の管理をしていた頃、利用者に寒いからボイラーを強くしてと度々言われたが、管理費のこともあり決まった温度から大きくできなかつた。施設の老朽化も感じていた。テニスコートがあるが、誰も使っていない草が生えているのでたましいと感じている。

メ⑧：清水は昔から箱物が充実していたが、今は改修が必要になってきている。施設は集約していくべき。今はバラバラに建っている感じがする。農業研修会館はあるが、合宿ができるように宿泊施設が必要だと思う。パークゴルフ場はコースとしてはバラエティに富んでいていいと思うが、利用者が少なくなったと思う。畜産研修センターはバーベキュー施設になっていると思う。

メ⑨：施設はたくさんあるが、どれも老朽化している。今後の維持管理が難しい。下佐幌パークゴルフ場は去年まで地元で維持管理していたが、今年から町でやってもらっている。施設の数が多いと思う。今後も続けるのか止めるのかが大きな課題だと思う。

メ②：個人的には図書館が団体で利用できるのはありがたいと感じている。アイスアリーナは清水というよりも御影という意識が強い。文化センターなどは民間だと簡単に利用することができないと聞いたことがあるがどうなのか知りたいところ。

メ④：自分が利用した感想だが、小中高と清水に住んでいて文化センター大ホールの施設

はすごいと思う。自分は演劇をやっている使っていたが他にこんな施設はないと感じている。バスケもやっていたので体育館も使っていたが、予約が入っていないので個人で利用しやすいと思っている。農業研修会館は古いけど自分としてはあの雰囲気は悪くなかった。新しくしなくてもいいと感じている。郷土史料館は職員に言ってから空けてもらわなければならない、とても使いづらい。設備はいいのにもったいない。もっと開放したらいいのと思う。図書館は本も多くていいけれど、本の場所が探しにくい。もっと工夫をして配置をすれば使いやすくなると思う。ビデオコーナーはレーザーディスクであり自分自身、ここ以外でレーザーディスクを見たことがない。この先を考えるとレーザーディスクはどうかと思う。

オブ：民間が簡単に使えないということはなく、町内外問わず使える。ただ、料金が違ったり、例えばフリーマーケットなど営利販売となると法律上公民館ではできないことになっているので、この点で使えないと思われるのかもしれない。パークゴルフ場の利用者数の推移資料がなく申し訳ない。無料としていることもあり、人を配置して利用者数を把握していないのですが減少傾向であるのは確かだと思う。

ファ：施設の数が多いのではという意見が多くあったと思います。どういう使い方をするのかは役場が決めるのではなく、町民皆さんが決めるものだと感じました。公共施設は自分たちが使うものだという意識が大事だと思う。令和7年度に体育館の建て替えという話があるようですが、それが1つのタイミングになるのではないかと感じます。体育館としてだけでなく、機能を増やしていくなど、また、どんな機能を持たせるのがいいのかなど意見があったらお願いしたいと思います。

メ④：体育館の建て替えがあるのですか。

オブ：正式に令和7年度にという決定ではないが、耐震を考えて建て替えを検討しているところと町長が話しをしているところです。工事としては2年くらいかかるであろうと考えており、逆算するとそろそろ検討していく段階かと思う。

ファ：親子で使えるなど、どんなものがあればいいと思いますか。

メ④：今の体育館には怪我をした時の薬がほとんどない。応急的なもの、アイシングなどがあればいいと思う。

ファ：運営側と利用者側の考えが近くなるといいなと感じますが。

メ③：昔、御影には健康器具があった。子供が使ったりなどで壊れて結局直さなかった。高齢者が使えるものがあればと思うが、何のため、誰のためにといいところが見えない。目的意識が大事であり、統計を取りながら進めないと無駄になってしまうと思う。

ファ：何のためにといいのは本質的なところだと思います。

メ⑧：体育館は必要だが、子供が減ってきて利用者も限られている。ただ小さくするのも使いたい人が使えなくなってしまう。小中高の学校の近くがいいのではないかとと思うが、施設を総合的に集約して徒歩でいける場所にといいのは必要だと思う。

メ①：どういう人がどういう形で使っているか実態がわかればいいと思う。

メ②：自分は体育館を使う時、毎月ある程度利用状況がわかるので、空き状況を聞いて利用している。建て替えなければならないのはわかるが、今の体育館で不自由はないと感じている。とても満足しているので、今困っていることはあるのかと思っている。100円で使いたい時に使えるのはありがたいと感じている。

メ③：何で利用料があるのか。どうしても取らなければならないのか。

オブ：利用料は町が条例で定めている。元々は無料としていたが、財政問題、使う人と使わない人とのバランスを考え、受益者負担があった方が不公平感がなくなるという考えできている。

メ③：パークゴルフ場は逆に無料になったと思う。

オブ：パークゴルフ場はある種コストを考えた中でも特殊な感じだと思う。

メ②：嫁の親が管外にいて、パークゴルフ大好きなのですが、よく清水のパークゴルフ場に来ると言っていた。アップダウンのあるコースで面白いし無料でとても喜んでいる。

メ③：元々は医療費にかけられなくなり、健康増進のためなどの理由があった。自分としては、公共施設は無料がいいと思っている。

メ②：保健センター2階のさわやかプラザは利用するとポイントがもらえ、ありがたいし嬉しい。

メ③：公平にと考えると、人口減の時は無料がいいと思っている。

メ⑨：使う側から見ると、利用料を全くなくすのは問題があるように思う。利用する人もいくらか払った方が使いやすいのではないか。無料は逆に公平感をなくすような気がする。パークゴルフは利用者が激減している。草刈をしっかりとやっているが、利用者は2、3人。一部でも負担が必要だと思う。

メ④：体育館の2階ギャラリーは床が滑る。ところどころ剥がれてもいる。柵のガラスは止めるべき。トレーニング室は場所がわかりにくいし器具が古く使いづらい。体育館の暖房はすごくお金がかかると聞いた。構造を変えた方がいいと思う。

ファ：役場はお金を生み出すのは苦手なのかもしれない。何かお金を生み出す方法もあつたらいいのでしょうか。

メ③：文化、スポーツ施設は何のためにあるのかを考えて欲しい。

ファ：文化施設について、皆さんにとっての理想や何のためにあるかをお話いただきたいと思います。

メ⑥：文化団体に入る、入らないで利用料が違うのは使いにくいところがあると思う。同じ思いのある人が数名いなければ利用をあきらめる人もいるのではないか。個人的にはヨサコイの練習で札幌から釧路からの中継点で利用することがあるが、使いやすいと感じている。利用者が少ない他の施設は考えなければならないと思う。

オブ：きたくま文化蔵は絵画を飾っている。創作活動ができる部屋もあり常設展示もしている。掲載されている利用者人数は文化蔵そのものの利用者というよりも、隣接の体育施設を地域の方が利用している人数であり、文化施設としての利用者はほぼ皆無。

メ③：交流も文化といえるからいいのではないかな。

メ②：体育館は移動手段がない人はそもそも行くことができず利用もできないと思う。

メ④：きたくま文化蔵はきずなの郷のように老人施設などのような利用方法を考えるのがいいのではないかな。

メ②：少年自然の家の利用者はどんな方なのでしょう。

オブ：キッズキャンプ等、町外からが8割くらい。五右衛門風呂があり、男子トイレは横との仕切りもないような古い施設だが、近くに川があり昔ながらの環境を求めて来られていると認識している。

ファ：何のために施設があるのかという点についてもお話を聞かせていただきたい。

メ①：自分たちは施設があるのが普通だと思っているが、都会の方は自分がスポーツをする時には、お金がかかるのは当たり前だと思っている。趣味の延長でもあるのかなとも思う。

メ⑤：これだけたくさん施設があるから、1つなくても他で使えると思う。充実していると思う。利用する時は100円でも払った方がいいかなと感じている。

メ③：有料無料の意見は分かれると思うが、集約してコンパクトに考えるのはいいと思う。私は税金で負担するべきと思う。受益者負担を考えるのもいいが年寄りのために無料がいいのではと考えている。

メ⑥：健康、子育ては大切だし、誰のためにというのも大切だと思う。スリム化していくためには色々な意見が出るのは避けられないと思う。他町村からは清水町の利用料は安いと言われることがあり、ありがたく感じている。

メ⑦：自分は御影に住んでいるので御影で利用させてもらっていてありがたいと思っている。

メ⑧：この歳になると、どんどん施設を利用する機会がなくなっている。パークゴルフ場だけは使っているが、今の施設は最小限充実した施設になっているのではないかなと思う。今考えるとスキー場はあのかき閉鎖しておいて良かったのではないかなと感じている。最小限の施設はこれからの人のために残していくべきだと思う。

メ⑨：今の施設はある程度淘汰され現状になっているように思う。スキー場も昔は使っていたが、人が少なくなり維持管理を考えて当時はかなりもめたようだが、もし続けていたら町民に負担が重くのしかかっていたのではないかなと思う。

メ②：誰もが使いやすい施設であればいいなと思うし、使いたい人がそこにいるかどうか大切ではないかなと感じる。子供も人数が足りなくてやりたい競技ができない現実もある。

メ④：維持費管理費の問題はあるが、それぞれの施設は個人的には残して欲しいと思う。少年自然の家も農業研修会館も楽しい思い出がいっぱいで、これからもあって欲しいと思う。

ファ：今回の皆さんからの話を聞いた上で、改善シートに書き込んでもらいたいと思いますので、よろしくをお願いします。



## 全体会

コ：各班で出てきた意見を共有していきたい。

(各班より代表者発表)

### 【第1班「アイスホッケー」】

メ⑤：自分が学生の頃はアイスホッケーが有名で競技人口も多かったが、現状としては清水町で幼年ホッケー等を通してアイスホッケーに触れる機会を作っているものの、少年団に入っている子どもたちで清水町の子どもは減少しており、隣町の芽室町などから来ている子どもが増えてきている。アイスホッケーを「御影の」ではなく「まちの」という形でアピールしていくことが大事。

具体的な方法として、旅行会社と協力して、東南アジアなどの外国の人達にホッケーを体験してもらう。また、清水町に姉妹町との交流のなかでも「清水町のアイスホッケー」として盛り込むことも出来ると思う。

御影アイスアリーナの老朽化は今後避けられない問題であり、維持費が高額になってくることは簡単に想像できるため、どのように維持していくかが重要。例えば、現代ではクラウドファンディングという手法も考えられる。

町外から清水町に留学してでもアイスホッケーをしたいという中学生が年に2, 3人はいるといふ。しかし、町内で受け入れ態勢が整っていないがために断念するという話があった。アイスホッケーの今後を考えるのであれば、町として受け入れ態勢を整えるというのも必要になってくるのではないかな。

(追加)

ファ：アイスホッケーの競技人口がなかなか増加しない要因としては、「費用的要因」「親の時間的負担」「施設の利用時間」が出てきた。競技人口が増えるにはと考えたときに、アリーナにいかなくてもできる「手軽さ」を取り入れたものを作る。また、「AKB48」にならい「御影アイスホッケー48 (MAH48)」を作ってみるといふような話もありました。また、今回のテーマを話すのであれば会場がアリーナだったらもっと面白い話が出来たかもしれないといふような話もあった。

コ：今回は各班の話した内容の性質が違ふことから、都度振り返りたい。競技人口は減少傾向にある(資料は他町から来ている人数も含んでいるためわかりづらい) その理由として、●「防具等の費用」「親の送迎に掛かる時間」がある。●アイスホッケーを町のスポーツとしての位置づけに力を入れる。●MAH48の結成や、姉妹町交流、または旅行会社との連携によって国内外へのアピールを視野に入れる。●体験をしてもらうに当たって「手軽さ」も重要になってくる。●アリーナの維持費をクラウドファンディングなどの手法を取り入れていく必要がある。●町外のホッケー留学を希望する中学生を受け入れてきていない。

第1班としては、今後もアイスホッケーを推していく方向だった。

### 【第2班「第九」】

メ③：40年前にこの文化センターが作られた時に第1回目の演奏会が開催され、その後5年ごとに演奏会が開催されているが、今後もどのように継続していくかが課題。●町民が今後、この事業に対してそのように関わっていけるのかも課題。●「第九」を、清水町民全体がもっと手軽に接することが出来るものにしたほうが良い。●事業の継続のために「実行委員会」を立ち上げ町の補助金等を使っていく。●小中高生を対象とした「第九」に関する行事等は継続していくべき。●「文化振興」としての話になるが、フロイデを清水町で買い戻して音楽ホール等に応用してはどうか。●フロイデを応用し、農畜産物を販売の販売、スポーツ合宿施設としても良いのではないか。●清水町は文化サークル等が多い中で、サークル主体ではなく清水町主体でイベント等を開催し振興を図るのも良いのではないか。●「第九」に関する継続的なイベントは実施しているが、そうではないイベントも開催しても良いと思う。

(追加)

ファ：●清水町に定着した経緯を知らない町民が多い。●合唱コンクールや演奏会を実施しているが、それ以外の部分での関わりがない。●清水町の第九として継続する担い手がない。●第九に触れる機会を作るためにも、5年に1回の演奏会は継続し、その間の4年間は小規模の第九イベントで第九に触れると良いのではないか。

コ：●40年前に文化センターが作られたときから実施しているが第九の定着がまだ弱い。●第九を推進する「主体」がないため、実行委員会を立ち上げそこに町がバックアップをしていく。●5年に1回の演奏会に加え継続的に第九イベントを実施し、まちの文化振興という意味でも今後継続していく。●元々は町営施設だったものを買い戻して、音楽活動等の文化活動だけでなく、農産物直売所や合宿所として活用する。

第2班としては、今後も「第九のまち」として推していく方向だった。

### 【第3班「社会教育施設」】

メ④：●体育館が令和7年に改修を予定している中で、有料とするのか無料とするのかが課題。●北熊文化蔵などの年間利用人数が少ない施設「維持費」「再活用方法」「統合」等の検討が必要。●各文化施設にも利用者の思い出があることから可能であるなら維持して行きたい。

(追加)

ファ：●各社会教育施設の実際に利用者がいることや、その施設の地域性を考慮すると、単順に利用者数で判断しないほうが良いのではないか。●施設の目的というものは、その施設を通して人が交流することが文化につながる。●社会教育施設というものは「人の人

生」にも影響するという重要な役割を改めて感じた。

コ：●体育館の今後の方向性として、改修すべきなのか、現状で問題はないのか。

第3班としては、利用者の少ない施設については、効率のみを重要視するのではなく残せるものについては残した方が良いという意見だった。

#### 【その他】

コ：各班で出された意見を聞いたうえで、封筒の表に記載されているスローガン「ベートーヴェンの第九・アイスホッケーのまちづくり」についてどう考えるか。挙手制によって確認。

A「今後もこのスローガンを掲げていったほうが良い」

B「違うものを含めて考え直したほうが良い」

→結果：同数

#### 《意見》

A→アイスホッケーも過去に問題になったこともあるが、知り合いの子どもたちは一生懸命取り組んでいるし、第九についても総合学科の清水高校の学生たちが頑張っている。そういった子どもたちのことも考えてこのままで良いと思った。

A→正直、今の挙手の結果に驚いている。今はそのまま問題ないの方に挙手したが、話を聞いているともっと良いフレーズがあるのではないかと思い始めました。

B→第九のように長年かけて根付いたものを大事にしたほうが良いと思いがあううえで、前回の会議の内容を含めて、今後清水町として何を目玉にしていくかは考えたほうが良い。

B→初めから清水町の特長を捉え切れていないスローガンに感じるため考え直したほうが良い。

B→第九・アイスホッケー・酪農といった単語を使うのではなくて、これらを想像させるようなフレーズにしたほうが、読んだ人の興味を引くものになると思う。

B→このスローガンにある二つに共通するものは何かと考えたときに「協調性」があることじゃないかと思う。歌を歌うにしてもホッケーをするにしても共通している部分がある。これはこれで良いと思うが、人口減少が進んでいく現状の中で清水町の子育てに関する政策は充実している。これを踏まえ、将来清水町に住みたくくなるようなスローガンを募集してみてもと思う。住みたくなる町というものは女性が安心して子どもを出産して、子育てが出来る環境であり、これに向けて産婦人科の誘致であったり行政のバックアップであったりが必要になる。今のスローガンが悪いとは思わないが変更する必要性を感じる。

B→子供たちが第九やアイスホッケーにふれて将来清水町に戻ってくることは良いことだと思います。アイスホッケーに携わることができるなど良いことですが、大人だけの考えでこれを全面的に出してしまう他のスポーツをしている子もいる中ではふさわしくないのかと思ったので見直しの方に手を挙げました。